
金沢大学 資料館だより

No.6

KANAZAWA UNIVERSITY MUSEUM NEWSLETTER



石造阿弥陀如来像（一乗谷朝倉氏遺跡出土）

目 次

一乗谷朝倉氏遺跡出土資料について	— 2
金沢大学所有美術資料一覧	— 5
新収蔵資料紹介	— 11
資料館集報	— 12

金 沢 大 学 資 料 館

〒920-11 金沢市角間町
TEL : 0762 (64) 5215

一乗谷朝倉氏遺跡出土資料について

現在当館に福井市の一乗谷朝倉氏遺跡から出土した石造阿弥陀如来像が保管されている。ここでは当館への保管にいたる経緯を含めこの資料の紹介を行う。

1. 史跡指定と阿弥陀如来像保管にいたる経緯

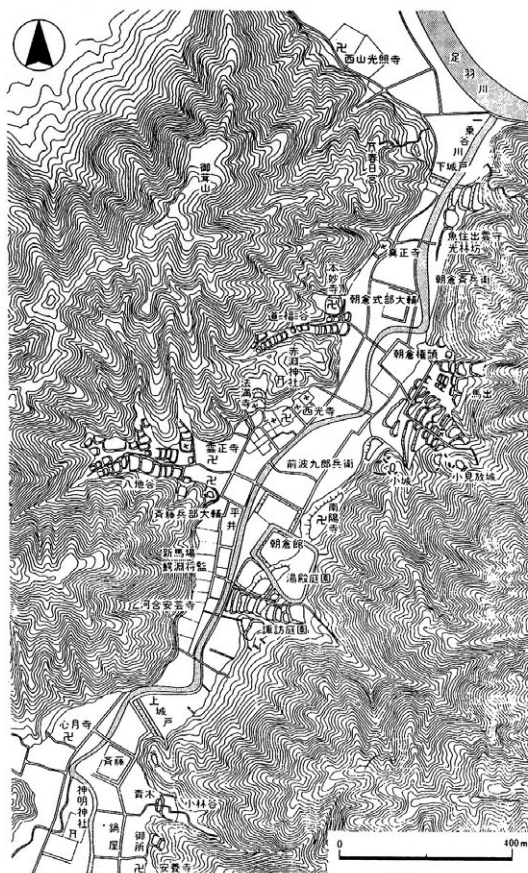
一乗谷朝倉氏遺跡は、わが国有数の戦国城下町であり、現在国の特別史跡の指定を受けている。その遺跡保存のために本学法文学部教授故井上鋭夫氏らの奔走と、福井県教育委員会の迅速な対応があった。

遺跡は昭和5年(1930)、城戸内にある湯殿跡・諏訪館跡・南陽寺跡の三庭園及び朝倉館跡に、安波賀地内の西山光照寺跡を加え、国の史跡・名勝の指定を受けていた。昭和42年(1967)、史跡全体の史跡公園化を目標とする環境整備事業が計画され、まず三庭園が発掘整備された。続く43年には朝倉館跡の発掘調査が行われ整備に着手された。遺構の残存状況は良好で、館跡の全面発掘のために継続調査を行うことになっていた。

ところが44年に計画された農業構造改善事業(足羽町足羽一乗土地改良区事業組合)で事態は急展開する。45年7月、同事業の一環として、水田の区画整理の工事が上城戸の外側(南東側)の東新町地内で始まった。上城戸の外側は伝承や字名から、足利義昭が滞在したという御所跡・安養寺跡をはじめとし、斎藤竜興の屋敷跡など遺構の存在が推定されていたが、調査はされていなかった。区画整理の工事のためにブルドーザー等の大型機械が導入されたため、表土が削られて、地下に残っていた遺構が破壊され、大量の遺物が出土したのである。

45年8月18日、井上教授はたまたま編集中の『蓮如 一向一揆』(日本思想大系17 岩波書店1972)に収める「朝倉始末記」の校注をつけるための現地調査として一乗谷を訪れた。教授は東新町の工事区域を踏査し出土した大量の遺物を検討して、遺構が残存していることは明らかだと判断した。また朝倉氏の居館をはじめとす

る城下町のあった城戸内にも区画整理が予定されていたことから、同夜、青園謙三郎福井テレビ副社長(当時)を通じて須知邦武福井県副知事(当時)を訪ね、工事の即時中止を申し入れた。翌19日同副知事と現地を視察した結果、20日に工事はいったん中止され、21日から25日までの5日間、井上教授、福井大学教育学部重松明久教授の指導の下に金沢大学考古学クラブ、福井大学教育学部の学生によって緊急調査が行われた。当館保管の石造阿弥陀如来像はその時の調査で発見されたものであり、保存のための緊急避難措置として出土陶器などとともに本学へ移送されたものである。出土地点は特定でき



第1図 一乗谷全体図(『一乗谷と職人』より)

ないが青木・小林谷・御所付近であるという。

これを契機に45年の秋から翌46年の春にかけて改めて発掘調査が行われ、御所跡遺跡から暗渠遺構などが確認され、安養寺遺跡からは墨書札や中国銭などが出土した。この調査をうけて46年2月、地元側の合意を得、農業構造改善事業は中止された。7月、西山光照寺と城山、上城戸の外側の小林谷・御所・安養寺まで含めた278haが国の特別史跡に昇格指定された。さらに47年度には福井市が用地を一括買収し、また47年4月に福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所が発足し、組織的な発掘調査と環境整備が始まった。その後56年同研究所は福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館と名称をかえているが調査は継続されている。

なお、この経緯については室山 孝氏（石川県立図書館史料編纂室、当時金沢大学考古学クラブ員）と仁科 章氏（福井県立博物館学芸課長）の話を参考にさせていただいた。

2. 朝倉氏と一乗谷について

福井市街から東南に約10キロの場所に一乗谷はある。一乗山麓を源とし足羽川に流れ込む一乗谷川を挟む南北5キロの細長い谷で、ここに戦国大名朝倉氏の城下町遺跡が存在する。

朝倉氏の祖先については但馬国朝来郡・養父郡（現兵庫県）の国人、日下部氏から起こったと言われている。越前入国のきっかけは南北朝の動乱で、北朝方として戦った朝倉広景がその功から黒丸城を与えられた事による。それ以後家景迄は黒丸城に居住した。但し、高景の時の將軍からの下付及び自らの荘園侵略による勢力拡大、教景の永享の乱（1438）・結城合戦（1440）への参加が見られる以外は、朝倉氏は歴史の表舞台には余り出て来ない。脚光を浴びるのは家景の子孝景（敏景・英林）の時になってからである。長禄合戦（1459）以降の幾つかの戦によって統一を進めてきた孝景は、応仁の乱（1467－77）で西軍から東軍に寝返る事で越前を掌握した。黒丸城から一乗谷へと本拠を移したのもこ

の時である。しかし、以後も周囲との争いは続いていた。代が替わっても内紛や一向一揆との問題があり、ある程度の安定期に入ったのは貞景や孝景（宗淳）の頃であった。

更に一乗谷が城下町として発展したのもこの時期である。『朝倉孝景条々』にも見る様な集住政策が取られ、領国文化の育成と同時に京都から下向した人々の知識によって文化面でも飛躍を遂げた。また足利義秋（義昭）は大和の松永久秀から逃れ義景を頼り、一乗谷安養寺に移った（1567頃）。この頃には曲水の宴等の諸行事も開かれ、当時の名残として幾つかの庭園跡も一乗谷には見つかっている。

しかし、義昭は兵を動かさない義景を見限り織田信長を頼って一乗谷を去った。以後義景は信長と対立する事になる。優位に立った事もあったものの次第に追われる立場となり、ついには一乗谷に火をかけて大野に逃れ自刃する事になった。広景の越前入国以来230年、一乗谷においては約100年に及んだ朝倉氏の支配はここに終わったのである。

参考文献

- 『一乗谷朝倉氏遺跡―御所・安養寺』福井県教育委員会 1979
- 『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ』福井県教育委員会 1979
- 『一乗谷』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1993
- かつおきんや『一乗谷のなぞ』若草書房 1986
- 佐藤 圭「朝倉氏の越前入国について」（『年報中世史研究』15、1990）

3. 石造遺物（阿弥陀如来像）について

長方形の石版の片側に阿弥陀如来の立像を半肉彫したものである。石版は横43.0cm、縦は下半を欠失しており現存長47.5cmを測る。厚さは最大で5.7cmである。

像は光背を意識した舟形の「ほりこみ」のなかに刻まれており、蓮華座の上に立ち、頭光をもつ。像高27.5cm、頭光の直径は13.3cmである。

像は縦、横に割れており、頸部と肩部の一部を欠いている。右手掌を前にして立て、左手掌

を前にして下げる来迎相で上品下生の印を結ぶ。

頭部は肉髻・螺髪で衣服は衲衣のみである。額には白毫が、頭部の正面には、肉髻珠が表現されている。

頭光と足下の蓮弁の輪郭、そして、顔、頭、胸、手のひら、足といった衣服に覆われない部分には赤彩が施され、その上に金泥が点々とみえる。金泥は当初、赤彩の上に全面に塗布されていたものとみられる。

本資料のように石版に像容が刻まれた例は一乗谷では少ない。

材質は、「笏谷石^{しやくだにいし}」と通称される福井市足羽山麓産の火山礫凝灰岩である。

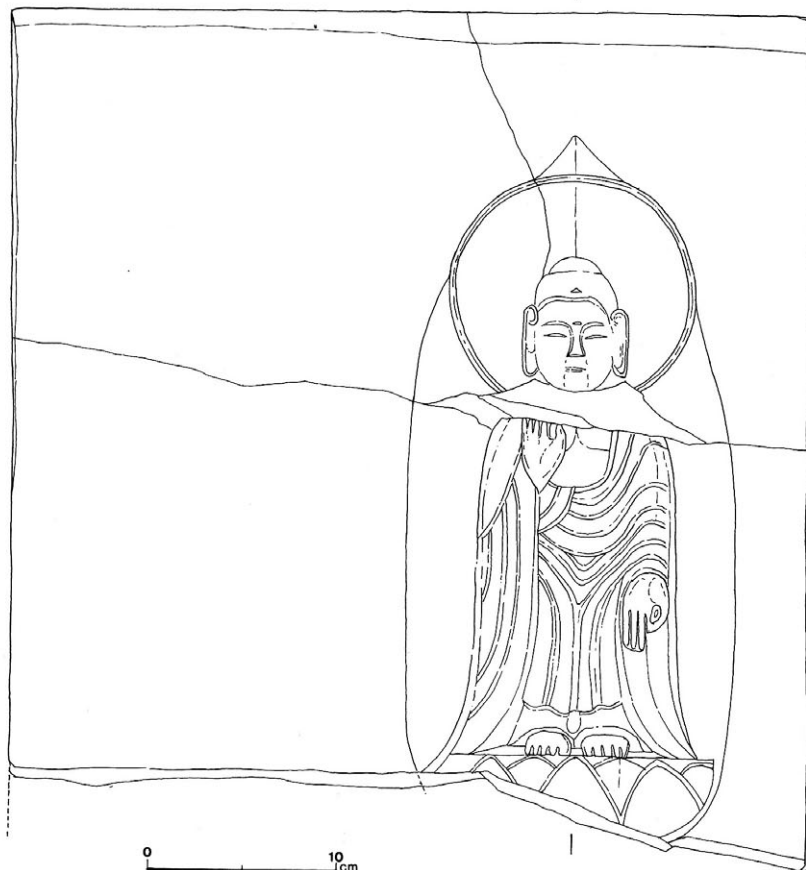
一乗谷の石造遺物は約3000基といわれており、紀年銘資料でみると、文明年間から天正元年までにつくられたものがほとんどである。このうち特に多いのは天文年間（1532～1555）で、本資料もこの時期の所産と見て大過なからう。

参考文献

- 水藤 真編『一乗谷石造遺物調査報告Ⅰ』 福井県教育委員会・朝倉氏遺跡調査研究所 1975

〔 執筆分担は次のとおりである。 〕

- | | |
|------------|-------|
| 1. 金沢大学資料館 | 在田 則子 |
| 2. 同 | 橋爪 直子 |
| 3. 同 客員研究員 | 三浦 純夫 |



第2図 石造遺物（阿弥陀如来像）実測図

金沢大学所有美術資料一覧

金沢大学には学内各室を飾っている美術品が数多くあるが、今度資料館でこれらについて調査する機会を得、その結果をまとめたのが次の一覧表である。常日頃各室を訪ね歩くこともないのでこのような作品がこの室にという驚きも多くあった。例えば彫刻界のかつての重鎮清水多嘉示氏の「男の立像」や、帝国美術院賞受賞の画家田辺至氏がまだ25歳の頃に描いた肖像画「木村 榮像」、西田幾多郎氏の揮毫「一日不作一日不食」等がそれである。また高光一也氏の油彩画を三点所有していることも明らかになった。美術品にはそれぞれ入手に際する経緯もあるわけであるから、これら美術品のいずれもが大学の歴史を側面から物語っている資料でもあるといえよう。今後とも大切に保管されることを切に願って止みません。

なお、今回の調査にあたって各部局の関係者の方から多大の協力を得たことを深く感謝する次第です。

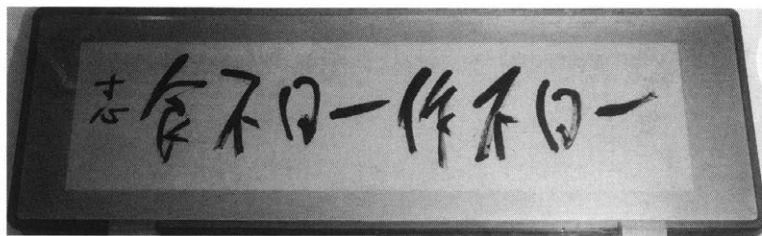
資料館長 今井治男

作家名	作品名	形態・材質	大きさ(号/cm)	所蔵・展示場所 制作・取得年	備考
1. 高光一也	白山霽日	油彩キャンバス	F 30	事務局 昭和41年取得	日本芸術院会員 光風会会員
2. 北濱 淳	黄衣の少女	油彩キャンバス	F 80	事務局 昭和36年日展特選作	元金沢大学教育学部教授
3. 不詳	四高記念像	塑像ブロンズ	高さ24.5 幅23.0奥行17.3	事務局 昭和49年取得	
4. 不詳	「折国逢駅使…」	軸／紙／墨書	99.0×32.2	事務局 昭和55年制作か	
5. 富田裕夫	薔薇	油彩キャンバス	F 15	事務局	一水会会員
6. 出口、R	富士山	油彩キャンバス	F 10	事務局 昭和26年制作	
7. 北濱 淳	ローマ風景— アッピア街道	油彩キャンバス	F 10	事務局 昭和59年取得	2. 参照
8. 北濱 淳	牛のいる風景	油彩キャンバス	P 200	事務局	2. 参照
9. 遠田運雄	籠球	油彩キャンバス	F 80	事務局 昭和24年日展出品作	元金沢大学教育学部教授
10. 吉田北辰	「そのように…」	額／紙／墨書	34.0×63.0	事務局 昭和41年制作	元金沢大学教育学部教授
11. 吉田北辰	「到处…」	額／紙／墨書	30.0×48.2	事務局 昭和41年制作	10. 参照
12. 吉田北辰	「星…」	額／紙／墨書	55.0×197.3	事務局 昭和42年取得	10. 参照
13. 林 健造	港の風景	水彩／紙	F 15	事務局 昭和24年制作	二紀会会員 水彩連会員
14. 不詳	「西海浮雲散…」	軸／紙／墨書	146.0×66.0	事務局	
15. 北濱 淳	婦人像	油彩キャンバス	F 80	辰口共同研修センター 昭和50年取得	2. 参照
16. 北濱 淳	ローマ風景	油彩キャンバス	F 12	辰口共同研修センター 昭和50年取得	2. 参照

17. 坂下清康	春	油彩キャンバス	F 80	辰口共同研修センター	二紀会会員
18. 遠田運雄	風景	油彩キャンバス	F 25	辰口共同研修センター	9. 参照
19. 中川善之助	「花の命は…」	額／紙／墨書	26.5×65.0	辰口共同研修センター 昭和49年制作	元金沢大学学長 日本学士院会員
20. 吉田北辰	「厳」	額／紙／墨書	48.0×48.0	辰口共同研修センター 昭和41年制作	10. 参照
21. 吉田北辰	「落日寛」	額／紙／墨書	62.0×79.0	辰口共同研修センター 昭和42年取得	10. 参照
22. 寺井重三	浅野川の雪景	額／紙／着色	134.8×178.8	理学部	一水会会員
23. 田辺 至	木村榮像	油彩キャンバス	P 20	理学部 明治45年制作	帝国美術院賞受賞
24. 清水多嘉示	男の立像	塑像ブロンズ	高さ61.0 幅25.0奥行17.8	平成3年取得	日本芸術院会員 文化功労者
25. 西田幾多郎	「一日不作 一日不食」	額／紙／墨書	30.0×121.5	教育学部	文化勲章受賞
26. 不詳	薔薇	油彩キャンバス	F 8	教育学部	
27. 北濱 淳	白山遠望	油彩キャンバス	F 30	教育学部	2. 参照
28. 辰巳明子	遙かな刻	油彩キャンバス	F 80	教育学部	二紀会会員
29. 加藤無堀	和氣清麻呂像	塑像石膏	高さ71.0 幅23.0奥行20.5	教育学部	
30. 円地信二	赤いマフラー	油彩キャンバス	F 20	教育学部 平成4年取得	光風会会員
31. 不詳	「心」	額／紙／墨書	34.0×65.5	文・法・経	



清水多嘉示 男の立像



西田幾多郎 「一日不作一日不食」

32.	SueColeman	カナダインディアンのトーテムとシャチの構図 リトグラフ	40.5×58.3	文・法・経 昭和60年寄贈		
33.	中村錦平	彩流	陶板壁画	263.4×466.0	文・法・経 平成1年寄贈	
34.	高光一也	エトルタの午后	油彩キャンバス	F 15	医学部 昭和48年寄贈	1. 参照
35.	早田楽斎	津田淳三像	油彩キャンバス	P 40	医学部 大正5年制作	
36.	早田楽斎	大田美農里像	油彩キャンバス	P 40	医学部 大正5年制作	
37.	早田楽斎	田中信吾像	油彩キャンバス	P 40	医学部 大正5年制作	
38.	桐山純孝	金沢病院ノ記	額／紙／墨書	62.0×320.0	医学部 明治12年制作	石川県令
39.	三條実美	「金沢病院」	額／絹／墨書	62.5×160.0	医学部	太政大臣
40.	三條実美	「金沢病院」	額／板／書	82.0×184.0	医学部	39. 参照
41.	不詳	「下馬飲君酒…」	軸／紙／墨書	133.5×31.0	医学部 昭和2年制作か	
42.	不詳	「龍潜渕」	額／紙／墨書	29.0×92.5	医学部	
43.	吉田三郎	金子博士像	塑像石膏	高さ59.0 幅35.0奥行25.0	医学部 大正5年制作	日本芸術院会員
44.	炭山南木	「撥雲尋道」	額／紙／墨書	130.0×66.0	医学部	
45.	久田鶴南	「養志」	額／紙／墨書	132.0×57.5	医学部	
46.	小泉道中	「北陸 勝区兼六園…」	パネル／紙／墨書	68.0×68.0	医学部 平成5年制作	
47.	高光一也	大王岬に咲く椿	油彩キャンバス	P 15	医学部	1. 参照
48.	堀 忠義	川べり・春	油彩キャンバス	F 100	医学部	一水会会員



田辺 至 木村 榮像



廣田百豊 富士山

49.	水野 朗	黒川自然翁	銅レリーフ	91.0×68.0	医学部 明治44年制作	
50.	二又米造	アカンサス	油彩キャンバス	F 80	医学部	
51.	藤 願	松と芒の図	額／絹／着色	132.0×85.0	附属病院	
52.	徳田八十吉	壺	磁器	高さ19.0口径10.5 胴径21.0底径8.5	附属病院	日本工芸会会員
53.	真道秋皓	富士	額／絹／着色	50.0×45.0	附属病院 昭和42年取得	
54.	木暮成起	河原	額／絹／着色	44.0×49.5	附属病院 昭和37年取得	
55.	竹近壮一	溪流	額／絹／着色	42.0×50.0	附属病院 昭和37年取得	
56.	竹沢 基	赤いリボン	油彩キャンバス	F 80	附属病院	光風会会員
57.	金子博信	睡蓮の池	油彩キャンバス	F 20	薬学部 昭和55年制作	一水会会員
58.	林 健造	海に見える風景	油彩キャンバス	F 10	薬学部	13. 参照
59.	玉井敬泉	立山禅頂図	額／絹／着色	49.7×82.6	工学部 昭和17年制作	
60.	小宮山茂	花	油彩キャンバス	P 12	工学部 昭和12年制作	
61.	中村 皓	風景	油彩キャンバス	65.7×166.4	工学部 昭和初期制作	第四高等学校教授
62.	八田一路	種畜場の朝	油彩キャンバス	P 40	工学部 昭和17年制作	
63.	大蔵吉夫	初冬の山峡	油彩キャンバス	F 80	工学部 昭和58年制作	
64.	宮崎 央	牧場風景	油彩キャンバス	F 60	工学部	石川師範学校教授



徳田八十吉 壺



高光一也 エトルタの午后

65.	森 豊一	青戸信賢像	塑像陶製	高さ61.0 幅32.8奥行26.8	工学部 昭和16年制作	日本陶彫会副会長
66.	川村嘉久	ねぐら	油彩キャンバス	F 80	教養部 昭和30年日展入選作	光風会会員
67.	遠田運雄	風景	油彩キャンバス	F 20	教養部	9. 参照
68.	北濱 淳	若い人	油彩キャンバス	F 100	教養部	2. 参照
69.	畝村直久	暁鳥 敏像	塑像ブロンズ	高さ35.0 幅21.0奥行18.0	附属図書館 昭和23年制作	
70.	米林勝二	暁鳥 敏像	塑像石膏	高さ61.0 幅41.0奥行32.0	附属図書館 昭和27年寄贈	元金沢大学教育学部教授 文化行政功労者
71.	南条文夫	清沢満之像	軸/絹/墨画賛入	112.2×39.7	附属図書館	
72.	暁鳥 敏	「よみたしと…」	軸/紙/墨書	43.0×67.0	附属図書館 昭和25年制作	
73.	松本芳景	三十間長屋	油彩キャンバス	F 50	附属図書館 昭和35年取得	
74.	松本芳景	白山	油彩キャンバス	F 15	附属図書館 昭和40年取得	
75.	北濱 淳	婦人像	油彩キャンバス	F 80	附属図書館 昭和49年取得	2. 参照
76.	巖 如春	加賀藩 年中行事圓繪	折本/3巻/ 紙/着色	24.2×17.9 厚さ1.7	附属図書館	
77.	巖 如春	加賀藩 儀式風俗圓繪	折本/3巻/ 紙/着色	27.7×20.0 厚さ3.2	附属図書館 昭和8年制作	
78.	不詳	大名行列図	卷子本/紙/着色	30.6×345.9	附属図書館	
79.	暁鳥 敏	「汝身当知」	額/紙/墨書	34.0×140.0	附属図書館 昭和27年取得	72. 参照
80.	暁鳥 敏	「暁鳥文庫」	額/紙/墨書	66.0×272.5	附属図書館 昭和25年取得	72. 参照
81.	暁鳥 敏	「暁鳥文庫」	額/板/書	43.3×118.0	附属図書館 昭和25年制作	72. 参照
82.	井堂雅夫	金沢十景の内	木版	26.0×38.5	附属図書館 昭和50年制作	三軌会会員
83.	井堂雅夫	金沢十景の内	木版	25.0×37.5	附属図書館 昭和54年制作	82. 参照
84.	濱田庄司	茶碗	陶器	口径12.5高さ8.5	資料館	文化勲章受賞 国画会会員
85.	不詳	木造地藏菩薩像	彫像檜材	高さ148.0 幅45.0奥行24.0	資料館 昭和27年寄贈	
86.	不詳	木造如来形坐像	彫像檜材	高さ89.0 幅43.0奥行18.0	資料館 昭和27年寄贈	

87. 不詳	木造天部形立像	彫像檜材	高さ100.5 幅33.0奥行18.0	資料館 昭和27年寄贈	
88. 不詳	木造天部形立像	彫像檜材	高さ110.0 幅30.0奥行21.0	資料館 昭和27年寄贈	
89. 米林勝二	裸婦	塑像石膏	高さ175.0 幅36.0奥行39.5	資料館 昭和34年日展出品作	70. 参照
90. 郡司和男	墮天使	塑像ブロンズ	高さ46.0 幅10.8奥行23.0	資料館 昭和53年標会展出品作	新制作協会会員 元金沢大学教育学部助教授
91. 廣田百豊	富士山	額／絹／着色	56.0×143.5	資料館 昭和27年取得	日本自由画壇
92. 中濱松香	鷺図	軸／絹／墨画	163.6×71.0	資料館 平成6年取得	北陸絵画協会審査員
93. 前田利為	「養正」	額／紙／墨書	63.0×166.0	資料館 昭和24年取得	加賀前田家16代当主 侯爵
94. 林銑十郎	「剛健醇美」	額／紙／墨書	63.5×185.0	資料館 昭和26年取得	陸軍大将 首相（昭和12年）
95. 永井柳太郎	「明朗敢為」	額／紙／墨書	62.0×165.5	資料館	近衛・阿部内閣通相
96. 小松宮彰仁親王	「至誠」	額／紙／墨書	121.5×210.0	資料館 明治34年制作	
97. 新井白蛾	「明倫堂」	額／板／書	130.0×280.0 ×40.0	資料館 寛政4年（1792）制作	
98. 前田直方	「経武館」	額／板／書	120.0×270.0 ×40.0	資料館 寛政4年（1792）制作	
99. 薩 義爾	「茫々東海…」	軸／紙／墨書	65.5×33.5	資料館 平成2年制作	中国全国人民代表大会 民族委員会顧問
100. 蘇 岳	創立六拾周年 記念祝賀之詩	軸／紙／墨書	136.5×48.5	資料館 平成6年取得	
101. 水谷 清	九竜城	油彩キャンバス	F 30	資料館 昭和42年取得	春陽会会員 元金沢大学教育学部教授
102. 水谷 清	闘牛	油彩キャンバス	P 40	資料館 昭和34年春陽展出品作	101. 参照
103. 遠田運雄	風景	油彩キャンバス	F 10	資料館	9. 参照
104. 宮崎 央	野の花	油彩ベニヤ板	F 10	資料館 平成5年取得	64. 参照
105. 宮崎 央	庭の一隅	油彩キャンバス	F 25	資料館 平成5年取得	64. 参照
106. 北濱 淳	ばら	油彩キャンバス	F 8	資料館 平成6年取得	2. 参照
107. 北濱 淳	パンテオンの 見える風景	油彩キャンバス	P 30	資料館 平成6年取得	2. 参照

一覧表は所蔵・展示場所別に作成した。制作年と取得年の両方がわかっている場合には制作年のみを記載した。

新収蔵資料紹介



「鷲図」絹本墨画 163.6×71.0

中濱松香 作 安政4～大正10 (1857～1921)

中濱松香は、明治・大正期にかけての画家。父祖3代にわたる画家の家系に生まれた。内国勲業博覧会や内国絵画共進会などに出品、明治30年頃には、「北陸絵画協会」に参加し山田敬中らと地方画壇の推進役をつとめた。

本作品においても、鷲の姿に見られる迫真性や周囲の樹木等の生き生きとした筆使いにその技量を充分うかがうことができる。

「創立六拾周年記念祝賀之詩」紙本墨書 136.5×48.5

蘇岳 筆

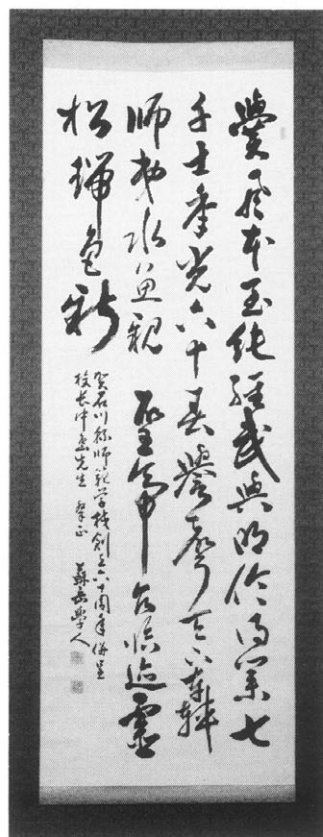
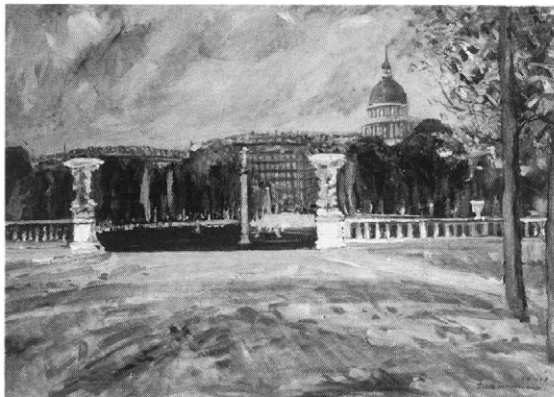
本作品は石川県師範学校創立60周年を記念して書かれ贈られたもの。

覺風本至純。經武与明倫。得業七千士。年光六十春。
譽聲天下轟。師弟水魚親。聖帝台臨迹。靈松瑞色新。

「パンテオンの見える風景」油彩 30号

北濱 淳 作 大正7～ (1918～) (元教育学部教授)

氏はもと光風会に所属し、日展に31回連続入選、「黄衣の少女」で特選を受賞。この「パンテオンの見える風景」は、氏が1年間フランスで研究生生活を送ったとき描いたもので、画面には素早い筆勢と絵具の盛り上げが見られ、マチエールを効果的に生かした充実した作品と考えることができる。



資料館彙報 (平成6年1月～12月)

- 5月 昨年、第四高等学校の物理機器の第一次収蔵分を受け入れたが、第二次分の機器を加え91点とし、当時の価格表・カタログ類10点と共に収蔵が完了した。明治20年代から昭和初期にわたって購入された機器は、主に外国製で、当時の物理教育を伺ううえで貴重な資料である。既に分類・整理が済み、一部に解説をつけた。
- 5月 宮崎 央「野の花」(油彩画 F 10)・「庭の一隅」(油彩画 F 25)を、教育学部から移管、収蔵した。
- 10月 教育学部美術研究室主催の「金沢大学教育学部美術研究室45年展」を展示室において開催した。教官・院生・卒業生あわせて42人による67点が出品され、市民を含めた多数の見学者を迎えた。
- 10月 石川県立歴史博物館の秋季特別展「金沢城」のために金沢城本丸跡・二の丸跡の出土資料を貸し出した。
- 10月 北濱 淳「パンテオンの見える風景」(油彩画 P 30)・「ばら」(油彩画 F 8)、中濱松香「鷺図」(墨画163.6×71.0)、蘇岳「創立六拾周年記念祝賀之詩」(墨書136.5×48.5)の4点を教育学部から移管、収蔵した。うち「鷺図」は汚損が著しいため修復を施す。
- 資料館運営委員、文学部助教授棚橋光男氏が12月1日逝去された。資料館においては「寄贈古文書検討小委員会」「一乗谷朝倉氏遺跡出土品検討小委員会」の委員として資料館の運営に尽力された。
- 資料館展示室では、平成7年度の部局・研究室主催の展示会または講演会等の企画を受け付けています。詳しくは資料館準備室(64-5215)にお尋ね下さい。



「美術研究室45年展」会場風景

金沢大学 資料館だより〈第6号〉

発行日：平成7年2月10日

発行所：金沢大学資料館

〒920-11 金沢市角間町 Tel 0762-64-5215

印刷：田中昭文堂印刷株式会社

〒920 金沢市小坂町中75 Tel 0762-52-7788
